

「農業遺産」目指すリンゴ栽培 県、体制づくりで協力

五所川原6次産業化推進協議会(事務局・五所川原農林高校)が中心となって取り組んでいる、本県のリンゴ栽培農法の「世界農業遺産」認定申請に向けた動きについて、県は18日、申請主体は「関係団体や市町村を中心とする組織」になるとの認識を示し、それらの体制づくりに協力していく姿勢を強調した。

同日の県議会農林水産常任委員会で、伊吹信一委員(公明・健政会)の質問に答えた。県は6月5日、世界

農業遺産に関する研修会を実施。参加した17市町村に対して意向調査したところ、リンゴを基軸とする認定申請に賛同する自治体が複数あったという。

遺産認定に向けては関係者の合意形成が必須であり、認定後も地域民の持続的な活動が必要となることから、県は、関係市町村や団体を中心に申請主

体を組織すべきとの認識を強調した。成田博農林水産部長は「コンセプトや対象地域の設定などについて、関係者がよく話し合って決めていくことが重要」と述べた。

また、先に認定されている国内5地域のうち2地域を視察した結果についての報告会を開く意向を示した。

(行方知代)